

国語科学習指導案【第1学年】

- 1 日時 令和6年11月1日（金）1校時
- 2 学年 第1学年（8名）
- 3 単元名 とうじょうじんぶつになりきっておんどくげきをしよう
「くじらぐも」

4 単元の目標

- (1) 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。 [知識及び技能] (1)ク
- (2) 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
[思考力, 判断力, 表現力等] C (1)ウ
- (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力, 人間性等」

5 単元で取り上げる言語活動

「くじらぐも」の登場人物の行動を想像したことを基に、音読劇をする。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク	①「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C (1)エ)	①進んで、場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し、今までの学習を生かして音読しようとしている。

7 単元について

(1) 教材観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 国語編第1学年及び第2学年〔知識及び技能〕(1)「ク 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。」及び〔思考力, 判断力, 表現力等〕C読むこと(1)「エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。」に基づいて設定するものである。

場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像するためには、物語の世界に浸って登場人物に同化しながら読み、叙述と結び付けて、何をしたのか、どのような表情・口調・様子だったのかを具体的に思い浮かべることが必要である。

本教材は、小学校1年2組の子どもたちと、くものくじらとの交流が描かれたファンタジーである。くじらぐもと子どもたちが呼応する会話文や繰り返し出てくる会話文が多く、声に出して読む楽しさを味わうことができる。また、児童と同じ第1学年の子どもたちが登場人物であることや、学校のグラウンドで体育の授業をしている場面から物語が始まるのが児童にとって身近に感じやすく、登場人物に同化して物語の世界を楽しむことができる。児童の中には、これまでに、雲を何かの形に見立てたり雲に乗ってみたいと思ったりしたことがある児童もいるのではないかと考える。物語の世界に浸り、あたかも児童自身が登場人物の一人になったかのように読み進めることで、児童が想像したことを物語の中で疑似体験することができるであろう。以上のことから、本教材は、登場人物の行動を具体的に想像させることに適した教材であると言える。

(2) 児童観

本学級の児童は、8名中2名の児童が初見の文章を一字一字押さえながら読んでおり、語のまとまりとして捉えられていない。2名中1名の児童は、音読をする時に、文字を追っている様子が見られないことがあり、他の児童の音読を聞いて単語を認識し、聞き覚えで音読をしている。もう1名の児童は、拗音や濁音のひらがな表記を正しく発音できないことがある。その他の6名の児童は、語のまとまりや響きに気を付けて音読をすることができるが、自分が理解しているかどうか

を確かめたり、自分が理解したことを表出したりするまでには至っていない。

これまで、「おむすびころりん」を扱った学習において、登場人物の行動を具体的に想像する発問をした際、挿絵だけを見て判断している児童が多く、叙述と結び付けて具体的に想像することができた児童は少なかった。挿絵だけを見て判断をしている児童は、文字をすらすら読めず文字を読むことに抵抗があったり、文章の意味を理解できていなかったりしたと考えられる。また、文章の意味を理解できていても、場面の様子と結び付けて登場人物がどのような表情・口調・様子だったのか具体的に想像しながら読むことは、まだ十分できるようになっていない。

(3) 指導観

① 育成したい資質・能力を明確にした単元構想

「登場人物になりきって音読劇をする」という言語活動を設定し、登場人物の行動を具体的に想像したことを基に、様子が伝わるように音読や動作を工夫するという学習の見通しをもたせる。意欲をもって学習に取り組めるように、音読劇は、録画して2年生に見てもらうことを伝える。

「語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する」ことに関して、音読を練習する際には、語のまとまりに気を付けて音読ができるように、教師の範読の後に追い読みをさせる。また、一斉音読をする時には、電子黒板で主な語を色分けして示すなどし、視覚的にも語のまとまりに気を付けて音読できるようにする。文字を読むことを意識できるように、教師が間違えて読み、その間違いを見つける活動を行ったり、児童が正しく読めているかを確認するために、2人組でお互いの音読を聞き合う活動を取り入れたりする。さらに、音読劇の様子を一人一台端末で録画し、見返すことで、自分の音読について客観的に振り返ることができるようにする。

「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する」ことに関しては、まず、内容の大体を正確に捉える必要がある。そのために、挿絵を並びかえて物語の流れを大づかみに捉えたり、挿絵に合わせて登場人物の言動を叙述から見付けたりする学習を行う。登場人物の言動を見付ける際には、くじらぐもの言動は青色、子どもたちの言動は赤色で本文に線を引かせることで、誰の行動かを捉えやすくする。次に、場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像できるように、動作化をさせながら役割読みをさせる。くじらぐもはどこにいるか、どうしたら雰囲気が出るか考えさせることで、児童から表現の工夫を引き出すことができるようにする。

② 思考の方法の活用

本単元では、思考の方法【比べる】と【理由】を活用する。【比べる】については、「ここへおいでよう。」「天までとどけ、一、二、三。」のように、同じ会話文が複数回あるものを比べ、誰の台詞なのか、台詞の話者はどこにいるのか、どのような口調で、どのような身振り手振りで話したのかなど、登場人物の行動を具体的に想像できるようにする。【理由】では、どの叙述を基に想像したのかを問い、場面の様子に着目して、叙述を根拠にすることができるようにする。

8 単元の指導計画（9時間扱い）

次	時	学習活動	・指導上の留意点	◇評価規準 (評価方法)
【本質的な問い】 ○お話を具体的に想像することはどんなよさがあるのだろうか。 【単元を貫く問い】 ○くじらぐもや子どもたちはどんな様子だろうか。				
一	1	・単元の学習の見通しをもつ。	・本単元の学習のねらいを具体的に示し、見通しをもって学習に取り組めるようにするとともに、学習のねらいを達成するために音読劇をしたいという児童の思いを引き出し、学習への意欲を高める。	

	2	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物や主な出来事、結末など、お話の内容の大体を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> 雲の写真を示し、何の形に見えるかを尋ねたり今まで雲を見て空想したことがあるかを尋ねたりし、物語を読みたいという思いを引き出す。 教師の範読を聞き、意味の分からない言葉を児童同士で尋ね合うよう指示する。 語のまとまりや響きに気を付けて音読をすることができるように、教師が範読をした後、追い読みをするよう指示する。 挿絵を並びかえ、どうしてその順にしたのか問いかけることで、内容の大体を捉えることができるようにする。 誰が言ったこと、したことか捉えやすくするために、くじらぐもの行動は青色、子どもたちの行動は赤色で線を引くよう指示する。 教師が間違い読みをし、「みんなが」「くじらぐもも」などの助詞に着目できるようにする。 動作化させることで、登場人物の行動を捉えられるようにする。 	
二	3	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちがくじらぐもに呼びかけた場面の登場人物の様子を想像する。【比べる】【理由】 	<ul style="list-style-type: none"> ペアで役割読みをする際、くじらぐもが空にいることを表現するためにどのような工夫ができるか児童に問いかける。 子どもたちが言った「ここへおいでよう。」と、くじらぐもが言った「ここへおいでよう。」を比較させることで、お互いがどこにいるのか、どんなことをしたのかなど、登場人物の行動を具体的に想像できるようにする。 「はりきりました。」の子どもたちの様子を具体的に想像できるように、児童にこれまでの経験を想起するよう促す。 	

	4 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちがくじらぐもにとびのろうとする場面の登場人物の様子を想像する。【比べる】【理由】 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが3回ジャンプをしたりくじらぐもが応援したりするときの様子は毎回同じだったのか比較させることで、登場人物の行動を具体的に想像できるようにする。 30センチと50センチの長さのテープを示し、子どもたちが跳んだ高さを具体的に想像できるようにする。 	
	5	<ul style="list-style-type: none"> くじらぐもとさようならをする場面の登場人物の様子を想像する。【比べる】【理由】 	<ul style="list-style-type: none"> さようならをした時の経験を想起させるとともに、音読を通して、くじらぐもに手を振っているときの子どもの表情・口調・様子を具体的に想像できるようにする。 	◇〔思・判・表〕場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(発言)
	6	<ul style="list-style-type: none"> くじらぐもにのった子どもたちの様子を想像したことをもとに、感想をもち、交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分だったらくじらぐもにのって何をしたり見たりしたのか、くじらにどんなことを伝えたいかなどと問いかけることで、文章の内容と自分の体験とを結び付けながら、文章の内容に対する感想をもち、感想を共有できるようにする。 	
三	7 8	<ul style="list-style-type: none"> 音読劇を録画する。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習で、児童が具体的に想像したことを掲示し、振り返りながら音読に取り組めるようにする。 想像したことが伝わるようにもっと工夫できるところはないか問いかける。 	◇〔態〕進んで、場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し、今までの学習を生かして音読しようとしている。(発言・行動)
	9	<ul style="list-style-type: none"> 完成した動画を見て、本単元の学習全体を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年生が動画を見て書いた感想カード(よかったところ・アドバイス)を紹介し、学習のねらいに関わって出来たところや次の学習で頑張りたいことなどを振り返るよう促す。 	◇〔知・技〕語のまとめや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(音読・ノート)

9 評価の具体

<p>評価規準 (思・判・表)</p>	<p>「おおむね満足できる」状況 (B)</p>
<p>①場面の様子に着目して、②登場人物の行動を具体的に想像している。</p>	<p>「①くじらぐもに手をふっているときの子どもたちは、②わらっているとおもいます。わけは、①くじらぐもにのってたびをしたのしかったからです。」 「子どもたちは、②「さようなら。」をさみしそうにしているとおもいます。わけは、①いっしょに空をたびしたくじらぐもとさようならをしないとイケないからです。さようならをするときは、さみしくなるので、②こえがちいさくなるとおもいます。」</p>

10 本時の学習 (4時間目/全9時間)

(1) 本時のねらい

場面の様子に着目して子どもたちやくじらぐもの様子を具体的に想像することができる。

(2) 本時の展開

学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 (方法)
<p>1. 前時の学習を振り返る。</p> <p>2. 本時の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>くじらぐもとびのろうとす るとき子どもたちやくじら ぐもはどんなようすだろう。</p> </div> <p>3. 教科書 10 ページから 11 ページを音読する。</p> <p>4. ペアで音読劇をし、登場人物の行動を具体的に想像する。</p> <p>5. 全体で発表をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を生かして音読をさせ、子どもたちはくじらぐもにのろうと張り切っているところであるという物語の流れを想起できるようにする。 ・教師がくじらぐも役をし、工夫のない音読をすることで、児童の気付きから、登場人物の行動を具体的に想像し、想像したことを音読で表すという学習活動を児童が理解できるようにする。 ・くじらぐもがどのように応援しているか想像できるように、児童にこれまで応援をした経験を想起するよう促す。 ・ペアで、子どもたちとくじらぐもに分かれるよう指示する。 ・具体的に想像できているペアを紹介し、参考にできるようにする。 ・叙述を根拠に発言できるよう、本文のどの叙述からそう思ったのか問い返す。
<p><本時で扱う思考の方法> 【比べる】【理由】</p> <p>手立て：「天までとどけ、一、二、三。」の時の子どもたちは、3回とも全部同じ様子だったのか発問したり、どうしてそのように想像をしたのか、どの部分から考えたのか、問い返したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「天までとどけ、一、二、三。」は、一回目より二回目のほうがこえが大きくなっているとおもいます。わけは、「くじらがおうえんしました。」とかいてあって、はじめは、くじらのおうえんがなかったけど、二回目にとぶまえにくじらぐもがおうえんをしていて、おうえんされるともっとがんばろうというきもちになるので、こえも大きくなるとおもいます。 ・くじらぐもは、子どもたちに空にきてほしいから、「もっとたかくもったかく。」のときに、手をぶんぶんふっておうえんしているとおもいます。 	

<p>6. 交流したことをもとに、音読劇をする。</p> <p>7. 本時のまとめをする。</p>	<p>・30センチと50センチの長さのテープを示し、子どもたちがとんだ高さを具体的に想像できるようにする。</p> <p>◇〔思・判・表〕場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(発言)</p> <p>※本時では、指導に生かす評価とする。</p> <p>・まとめを児童が自分の言葉で書くことができるように、本時の課題に対して、何人かの児童に具体的に想像したことを発言させた後、個人で自分のノートにまとめを書くよう指示する。</p>
<p>子どもたちは、くじらぐもにのりたいたいからだんだんこえを大きくして、たかくとべるように、いっしょうけんめいになっている。</p> <p>くじらぐもは、子どもたちに空にきてほしいから、大きなこえで手をふりながらおうえんをしている。</p>	
<p>8. 学習を振り返る。</p>	<p>・分かったこと、できたこと、これから頑張りたいことを振り返るように指示する。</p>

11 板書計画

Ⓜ 子どもたちは…
くじらぐもは…

「くじらぐも」

とうじょうじんぶつになりきっておんどくげきをしよう

みなは、手をつないで、まるいわになると、

「天までとどけ、一、二、三。」

とジャンプしました。

でも、とんだのは、やっと三十センチぐらいです。

「もつとたかく。もつとたかく。」

と、くじらがおうえんしました。

一回目より大きく

「天までとどけ、一、二、三。」

こんどは、五十センチぐらいとべました。

「もつとたかく。もつとたかく。」

と、くじらがおうえんしました。

二回目より大きく

「天までとどけ、一、二、三。」

そのときです。

いきなり、かぜが、みんなを空へふきとほしました。そして、あつというまに、せんせいと子どもたちは、手をつないだまま、くものくじらぐもにのっていました。

「くじらぐも」

なかがわ りえこ さく

「くじらぐもにとびのろうとするときの子どもたちやくじらぐもはどんなようすだろう。」

やくになりきろう

どんなひょうじよう?

どんないいかた?

どんなうごき?

おんどくのくふう

おおきく・ちいさく

つよく・よわく

やさしく・こわく

ゆつくり・はやく

あかるく・くらく

おうえんしてもらったもつとがらばろうとおもう。

手を大きくふつておうえんしている。

こんどこそ。みんなでこえをあわせて